

工場法小史

横田 隆 著

工場法から労働基準法制定までの背景，経緯等が明らかに

石井 義脩

本書は，近現代史の歴史学者にも参考になる専門書です。明治時代初期から工場法制定を経て戦後間もない1947年の労働基準法制定時までの労働関係の法令等の変遷とその運用状況などが簡潔にまとめられています。

著者の横田隆氏は，31年間にわたり労働基準監督官として活躍され，大阪中央労働基準監督署長を最後に2002年に退職されておられますが，全国数千人の労働基準監督官の中でもトップクラスの有能な方であるとの評価が，当時の労働本省においてなされていたことを承知しています。本書を読んでそのことが改めて認識できます。

本書の執筆に当たられては，国立国会図書館，国立公文書館，各地の図書館などの資料を体系的に収集され，関係論文も参照されています。単に国の法令の変遷だけではなく，工場法制定前の各府県制定の規則も紹介され，とりわけ農商務省や内務省の資料，工場監督年報など法令の運用状況が表などにより分かりやすく紹介されています。

工場法という点，労働基準法の前身でもあるため，一般労働条件（労働時間，賃金など）の法令と受け止められがちですが，災害補償規定や労働災害防止・公害防止も含まれており，また，工場法の適用範囲が限られていたため，後に制定された労働者災害扶助法・同責任保険法（1931年（昭和6年）

制定），商店法（1938年（昭和13年）制定），さらには，健康保険法（1922年（大正11年）制定）などにも言及されています。

労働衛生史を学ぶ者にとりましては，太平洋戦争中の資料が少なく泣き所であるわけですが，簡潔ではあるもののそのポイントがよく整理されています。

現在の労働関係法令の中でも最も重要な労働基準法の制定に至るまでの背景，経過などが本書により改めて明らかにされたと思います。

本書には，著者自ら撮影された史跡や古書の写真も掲載されており，著者の資料収集の熱心な取り組みを偲ばせています。

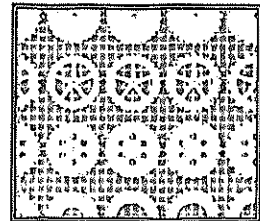
本書は，上記のような優れた著作ですので，2020年1月，日本労働ペンクラブの「日本労働ペンクラブ賞本賞」を受賞されました。

2019年10月12日に，名古屋における日本産業衛生学会・労働衛生史研究会で著者による本書に関するご発表が予定されていましたが，台風第19号の上陸日に当たってしまい，当該研究会の開催が中止となってしまいました。近い将来のご発表，ご講演などを期待しています。

本書は，冒頭に記しましたように歴史学者の参考になるとともに，労働衛生史等の研究者，ジャーナリスト，労働組合の皆さん，労働行政に携わる皆さん，労働行政関係団体の皆さんなどにぜひご購読いただきたいと思ひます。

工場法 小史

横田 隆



中央労働災害防止協会

横田 隆 著

中央労働災害防止協会，2019年10月，A4判上製，112頁，定価3,500円＋税

いしい よしまさ
産業医科大学 産業衛生教授，元厚生労働省 職業病認定対策室長